

ヒアリング相手	小金井雑学大学理事	日付	平成26年 月 日()
ヒアリング実施者	田中留美子	場所	萌え木ホール
1 活動の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・目的 生涯学習の推進 ・構成員（人数、性別、年齢、職種、居住地等） 70代を中心に男性3/4、女性1/4、小金井市内在住7割 ・主な活動内容（活動場所、頻度、人数） 月2回の講義の開催 ・地域とのつながり（例えば町会とのつながり等） 小金井市内で実施 ・情報発信の手段 市報、ポスター、会員へのお知らせ 			
2 これまでの歴史			
<ul style="list-style-type: none"> ・設立時期・代替わり（あれば）・変遷 平成10年3月設立、平成23年4月NPO法人化、学長は現在3代目 			
3 活動をしていく上での課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・活動をしていく上で困っていること、苦労していること 講師選定、運営に携わってくれるひとが少ない ・メンバーの変化に伴う課題（出産育児、転居、高齢化等） 高齢化 ・今後力を入れていきたいこと 多様な人たちの参加をうながす。 			
4 小金井市において若者の市民参加についての課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市の施設の利用に関連すること等 ・小金井市の行事への関わり等 ・他の市との比較で小金井市は活動しやすいか ・若者の市民参加における障害 ・貴団体への若者加入促進の工夫 ・若者が参加しやすい事業やイベントの内容、場所、時間 ・若者に響く広告方法（市民参加に興味を持つきっかけづくり、働きかける仕組み） 若者の市民参加は難しい。テーマが若者自身の勉強なり、仕事なりに生かせることが必要でないか。対象テーマのしぼりこみをした上で広告方法も考える必要があると思う。 			
5 市民参加の推進のために必要だと考えること			

市民参加推進会議ヒアリング報告様式

ヒアリング相手	[REDACTED]	日付	平成26年6月20日(日)
ヒアリング実施者	いじ 亜子	場所	抹茶社. いじやすみ
1 活動の内容			
<ul style="list-style-type: none"> - 目的 地域で最後を現役で(地域の役割をもつ)生活し続ける。(最後はコリが希望、希望) - 構成員(人数、性別、年齢、職種、居住地等) 150名、男女半々、60才~70才代が多い、年金生活者が多い、少数は現役で - 主な活動内容(活動場所、頻度、人数) 福祉会館 月1回理事会、6~10人、年に2回位講演会、仕事している - 地域とのつながり(例えば町会とのつながり等) 講演会が矢張りになる。 { 月に2回位講演会、月1回~2回ワークショップ(20人~30人)、福祉会館月1回 } - 情報発信の手段 会報、市報、ハガキ、掲示板ほか。 { 談話サロン年数会、ソフトランディング研究会、月1回 } (同じテーマの話し) 			
2 これまでの歴史			
<ul style="list-style-type: none"> - 設立時期・代わり(あれば)・変遷 2001年、研究会として立ち上げ、5年後にNPOとなり、現在に至る。 会長廣野Dr.が2014年に亡くなり、現事務局長が、会長業務と兼っている。 			
3 活動をしていく上での課題			
<ul style="list-style-type: none"> - 活動をしていく上で困っていること、苦労していること 会員メンバーを増やしたい。 - メンバーの変化に伴う課題(出産育児、転居、高齢化等) 会長の死去、メンバーの減少。 - 今後力を入れていきたいこと 居場所の作り直しをはかる。 			
4 小金井市において若者の市民参加についての課題			
<ul style="list-style-type: none"> - 小金井市の施設の利用に関連すること等 福祉会館を主に利用している。他に使える場所は? - 小金井市の行事への関わり等 福祉会館まつりに参加、演劇(寸劇?)を上演。 - 他の市との比較で小金井市は活動しやすいか 他市はよく合らないが、料りが少ないため活動しやすいと書いている。 - 若者の市民参加における障害 現実が最優先の若者には、ピシヤンコロのテーマは、緊急作業がないと、思われているのかも。 - 貴団体への若者加入促進の工夫 終末期の課題なので若者は関心が薄い。 - 若者が参加しやすい事業やイベントの内容、場所、時間 - 若者に響く広告方法(市民参加に興味を持つきっかけづくり、働きかける仕組み) 人生後半と死が確実に存在する、若者に届くメッセージ工夫が必要と思いついて 			
5 市民参加の推進のために必要だと考えること			

ヒアリング相手	[REDACTED]	日付	平成26年6月20日(木)
ヒアリング実施者	川口 亜子	場所	抹茶館 川口やすみ
1 活動の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・目的 地域の子どもたちに絵本の楽しさを伝える事、子育て中の親子士にほっとした時間を 持つて頂く。 ・構成員(人数、性別、年齢、職種、居住地等) 7人、50代～80代 ・主な活動内容(活動場所、頻度、人数) 図書館 児童館 ・地域とのつながり(例えば町会とのつながり等) 児童館(東町) ・情報発信の手段 お報 			
2 これまでの歴史			
<ul style="list-style-type: none"> ・設立時期・代替わり(あれば)・変遷 昭和48年頃から、子供達が大好き、絵本大好きな人達がひきつぎから 現在に至る。 			
3 活動をしていく上での課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・活動をしていく上で困っていること、苦勞していること 会員が増えにくい。 ・メンバーの変化に伴う課題(出産育児、転居、高齢化等) 転居、介護、仕事を持たないと、活動が続けられなくなる。 ・今後力を入れていきたいこと 子供達が、件件出来ず、ホッとした時間を持つるよう、お話しを進めていく。 			
4 小金井市において若者の市民参加についての課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市の施設の利用に関連すること等 利用しやすい。 ・小金井市の行事への関わり等 しやすい。関連する行事には積極的に参加。 ・他の市との比較で小金井市は活動しやすいか ・若者の市民参加における障害 時間の設定 ・貴団体への若者加入促進の工夫 学生の場合はボランティアとして参加してもらう。 ・若者が参加しやすい事業やイベントの内容、場所、時間 夜、食関連、音楽、広場、公園、シビックホール ・若者に響く広告方法(市民参加に興味を持つきっかけづくり、働きかける仕組み) グルメイベント、キャラクターイベント、音楽イベント等が効果的か... 			
5 市民参加の推進のために必要だと考えること			
<p>講演会に(豊洲)の子どもを呼んで、注目させる。 10時の人を呼んで。</p>			

第5期市民参加推進会議 論点の提案まとめ

番号	提案者	論点	提案理由
1	福井委員①	大学生の協力 大学生は、学校の単位取得が一番であり、地域参加のボランティア活動は後回しになっている。そのために、地域参加活動する大学生に、特典を挙げる。	企業・団体サークル主催のイベントやボランティアなどの地域参加活動した大学生に、小金井市認定の「社会参加認定書」を贈呈する。（就職活動にも活用）
2	福井委員②	市の若手職員の協力 市内の地域イベント活動には、年配者が多い。コミュニティ文化課の職員だけに任せるのではなく、市の若々しい職員が参加することが、まちの活性化につながる。	若手職員の地域イベントの参加は、本人が市民生活の現状をより知ることになり、業務活動の主体性の回復の起爆剤にもつながる。
3	福井委員③	若者の協力 若者（18～25歳）は、行政に抵抗があるので、地域活動に参加しやすくする。「市民参加センター施設」を新設して、若者も相談しやすい環境にする。	若者主催事業として、企画・運営するための「若者運営委員会」を設置する。 まちづくり活動：（例）「10年後の若者のまち小金井を目指す」などを検討推進。
4	浅野副委員長	・ヒアリング結果の整理と市への提言が可能な論点の抽出。 ・子育てニーズ調査の結果の検討。 ・市民意向調査の内容把握（参加に関してどのような質問が盛り込まれそうか等）。 ・長期計画の進捗状況把握（市民参加に関する項目がどのように扱われるのか等）。	現状把握をした上で、提言の具体化の方策を探る。
5	古畑委員①	小金井若者センターの設立	小金井青年会議所など公益社団法人等とタイアップし、街づくりに熱意をもつ20才から40才までの若者が集い、街づくりに関する調査、啓発活動、企画運営を通して街づくりに関する政策提言、情報提供、その運営方針を策定、さらにこれらを推進するため、地域民間ボランティアの形成を進め、共同で取り組む。 このほか行政の協力を得て活動目的を達成するため多様な活動を展開する。
6	古畑委員②	地域若者サポートステーションの開設	働くことを始めとして、地域の若者の自立支援をするために「地域若者サポートステーション」を開設し、さまざまな悩みの解決に対応する。

番号	提案者	論点	提案理由
7	杉本委員①	市民参加には市民活動への参加と市政への参加に分類整理されると考えます。市民活動への参加には情報と若者が集まれる場の提供が必要です。どのような場所や機能を持った場が集まりやすいのかが論点となると考えます。	若者は市報から情報を得ることが少なく、インターネットによる情報入手や交換が中心です。まずは小金井市のホームページを充実させ、興味を持たせるような内容をトップに掲載することが必要です。また若者が気楽に情報を交換できるような場を提供し、公民館や児童館など子どもや高齢者が集まる場所に若者が気楽に立ち寄り、世代の交流が自然にできる居場所が活動を始めるきっかけづくりになると思います。
8	杉本委員②	市政への参加には、審議会や議会の傍聴、陳情書や意見書の提出、選挙への投票行動などがあります。参加を促すためには、議会の内容をわかりやすく伝える工夫、保育環境の整備や、提案シートの積極的な活用、意見を交換できる場づくりなどがありますが、何をどのように進めていくのか、具体性のある実現可能な道につながる議論が必要だと考えます。また20歳台の投票率は非常に低い。若者の投票率を上げるにはどうしたらいいのかを考えるべきです。	市政に参加したいと思う若者が少ない原因として、「意見を提案しても取り上げてもらえない」「どうせ変わらない」という諦め感や無力感が根底にあると思います。そのためにも30代や40代の若者からの提案・意見を取り上げ、市政に反映できるような仕組みを充実していくことが必要です。
9	田中委員	若者の市民参加を促すために学生にはたきかけてはどうか。	やみくもにチラシを送っても効果がなかったのので、具体的にターゲットをしぼることを考えてみた。たとえば、公募委員を募集している委員会ならば、その分野を学んでいる大学や専門学校の学生に参加をよびかけるのはどうだろうか。
10	西尾委員長	子ども・若者議会	子ども・若者に対する市民教育・実践型学習の意味も持たせつつ、青少年にかかわる市政の課題について若者に議論の機会と場を提供し、政策に反映する。実施主体は行政でも議会でも可。イギリスに例あり。

3 中学生・高校生年代の青少年

(記入者：小金井市内に居住する中学生・高校生の年代の男女)

■学校生活／教育（16件）

- ・ 市内、小中学校の環境が整った状況を整備して頂きたい。
- ・ 勉強スペースがないので学校の放課後に寄れるような施設を作ったら子供の成長に貢献できると思う。
- ・ 屁理屈とか口の悪い奴がいるので、そういう人を育てないためにも注意してほしい。その子のためにもなるし自分達のためにもなるので。
- ・ 外で遊ぶ大切さや楽しさを、もっと子供たちに知らせて欲しい。
- ・ 子供のことを本気で考えてくれる、体当たりな大人が増えてほしい。
- ・ もっと施設を駅付近に配置し学校帰りに気軽に寄れる様にして欲しい。特に学生の自習スペースが欲しいです。
- ・ 学校でいじめが起こるのは、先生側が校舎の死角や人間関係を把握する余裕がないからだと思う。もう、ゆとり教育は終わってしまったが、生徒のゆとりよりも先生のゆとりを持たせてきちんと生徒と向き合っ、わずかなサインにも気づけるようにすれば、生徒間同士の暴力やいじめ、自殺などが減ると思う。
- ・ めんどくさいから学校に行きたくない。
- ・ いじめ関係を一番気にするべきだと思う。
- ・ 学校に行きにくい人たちを集めた施設をもう少し増やすべきだと思う。小学生にもいるのだから、小学生だけのそういう施設もあっていいと思う。

■遊び場（8件）

- ・ 子供が利用できる施設（スポーツができるようなところや小さい子が遊ぶところ等）が増えると、外で遊ぶ子も増え、体も強くなると思う。
- ・ 公園の遊具を撤去しないでほしい。規約はあってもよいが、夏に花火ができたり、ボール遊びができるスペースが欲しい。

■図書館／自習室（14件）

- ・ 図書館や公民館で勉強できる環境を、作っていただきたいと思います。
- ・ 学生が静かに集中して勉強できる、快適な環境を駅近くに作って欲しい。
- ・ 自習に関しての支援を良くして欲しいです（小・中学生も含めて）。
- ・ 市民交流センターを武蔵野プレイスのようにして欲しい。学習スペースなどが他の市と比べて少なすぎるし、図書館も小さい。
- ・ 小金井市は図書の量が足りないし、狭い。古い本ばかりで、とても使いにくい。もう少し設備を整えて欲しい。勉強する所もない。
- ・ 今年受験ですが、坂下で図書館などの静かに勉強できる場所を知りません。家ではゲームをしてしまうので、あれば、利用したいです。
- ・ 大きな図書館を作って欲しいです。

■スポーツ（3件）

- ・ 団体に属していなくても、自由にサッカーができるスペース（時間帯）を作って欲しい。
- ・ スポーツ施設を増やして欲しい。

■市に対して／安全面など（19件）

- ・ 高校生も医療費の補助をしてほしい。一番怪我をしやすい年頃だからです。
- ・ 高校でお金がものすごくかかるので、少しでも補助して欲しい。
- ・ 奨学金の充実を期待したいです。
- ・ あんまり詳しい事を知らないなので、どういう事をやっているのかの説明があったりすると嬉しいです。

- ・税金の無駄使いをしないで欲しい。無駄使いした分で子供のための施設を作って欲しい。子供の中で週に一度は必ず「小金井市はお金がないから。」という言葉が出てきます。このような状況なので小金井市の子供である私たちは、とても恥ずかしく思っています。だから頑張って上手にお金を使ってください。
- ・駅前に公園や休めるようなお店、子供を預けられる施設を集めた方が、仕事をしている親にとっても楽でいいと思う。
- ・私立学校に通っている子供に対して、支援がない。
- ・私自身がこの市について全く知りません。ネットでの情報なども、もっと充実させてもらえると嬉しいです。
- ・痴漢対策強化。公衆トイレ増設。多発していない場所でも「ちかん多発注意！」という看板。
- ・必要のない施設が多い。学校の近くの街灯を増やして欲しい。
- ・野川公園の自然を減らさないでほしい。
- ・歩道と道路の幅が狭いので、広くして欲しい。
- ・これから母親になる人や子育て中の母親が情報交換したり、会話を楽しむなどのリフレッシュできる施設があるといいと思います。子育て中の親が利用しやすい公共機関の充実を望みます。発達障害等支援を必要とする子供たちが通常学級で学ぶための支援員（作業療法士など）の充実を望みます。
- ・女性が子育てをしながら働ける環境を作るべきだ。今のままでは育児休暇を取って仕事に支障なく復帰することは難しいと思う。働いていても子供を産んで、この街で育てたいと思える市にしてください。あと、保育所を増設し、横浜市のように待機児童ゼロにしてください。
- ・もっと多く保育園を作るべきだと思う。

■その他（26件）

- ・一人ひとりが人のためにボランティアをしてほしいと思う。
- ・このアンケートは、今後どのように活用されるのかが疑問。学校の行事でも学校のアンケートでもなんでもそうだけど、意見を述べたところで何も変わらないので、こんなことに本音を書いたって意味がない。紙と時間の無駄だと感じてしまう。（自分を含め、周りの人も）。
- ・子供にも理解できる言葉でアンケートなどを作ってほしい。また、支援内容が分からないので、内容が分かるようにしてくれないと何もわかりません。
- ・駐輪場を増やすべき。
- ・カラオケを作って欲しい。（学生割引されるシステムがあれば是非利用したい。）スーパーが少ないので増やして欲しい。
- ・両親そろって生活している家庭だけではありません。もう少し設問を工夫して欲しいです。
- ・弱い子供たちを助けてください。
- ・小金井市のフリースペース（友達と集まって会話や勉強ができる所）を増やしたり、広くして欲しい。
- ・家にいたくないとき、自由になれる場所が欲しいです。あと、子供の自由と楽しみを奪わない場所もください。
- ・文化芸術に触れる事のできる環境を充実してほしい。
- ・色々やっていると思う。中学のときは生徒にボランティア案内など、よくお知らせがありました。高校生になって市内の高校にならなかったの、参加することはほとんどなくなってしまった。
- ・このニーズ調査のアンケートは施設や場所についての質問ばかりで、職員の対応についての質問が少なく内容が薄く感じた。中高生のための支援についてその実態を知ろうとするならば、もっと意見を聞けるようにその都度、記述欄を設けたほうが意見が集まりやすいと思った。
- ・小学生までは何かと守られ、遊びの空間も用意されているが、中学生ともなると、ゆっくりできる空間がなくなる。高校生は時に大人扱いされるが、法的には未成年で居場所がない。結果、ゲーセン、カラオケ、ファミレスに行くしかない。
- ・世間の大人はルールを破りすぎている。例えば、歩きタバコ。これは市をあげて解決するべきだと思う。そういうダメな大人がいるから子供がマネするんだよ。
- ・高架下が開発され、私達若い世代にとって良い刺激をもらえるような魅力的な街づくりがなされることを期待しています。
- ・アンケートで、初めて知ることが多かったと思います。アンケートがポーズでないのなら、もっと宣伝等をして知名度を高めるべきだと思います。また、アンケートの中に大人の視点が多く、学生に近い視点のものが欲しかったです。
- ・「きらり」を作って頂きありがとうございます。大人になった時にも就業面などでフォローしてくれる施設もほしいです。
- ・住人の意見を取り入れて、もっともっと素晴らしい小金井市を作ってください。

企画財政部企画政策課 工藤 啓 津田 琢 2参考までに送付します
運営団体 (NPO法人 育て上げネットについて)

古畑 昭彦

HOME > 運営団体 (NPO法人 育て上げネットについて)

ちようふサポステは、NPO法人育て上げネットが運営しています。

**NPO法人育て上げネットは
 若者の「働く」と「働き続ける」を応援する団体です。**

働きたいと考えている。
 働きたいと強く願っている。
 でも、働けない時間が長くなればなるほど、
 もう何をどこから始めていいのかわからなくなってしまふ。
 私たち、NPO法人育て上げネットは、
 そんなあなたを支援する活動を行っています。

働きたい、働き続けたいという若者や
 悩むわが子の力になりたいという保護者の想いに寄り添い
 その想いをカタチにしていくための若者支援の専門集団、
 それが、私たち、NPO法人育て上げネットです。

あなたの“いまを変えたい”の気持ちに
 少しでも貢献したいと考えています。

団体名称	特定非営利活動法人 育て上げネット
所在地	〒190-0011 東京都立川市高松町2-9-22 生活館ビル3F
電話番号/FAX番号	042-527-6051 / 042-548-1368
認 証	2004年 (平成16年) 5月
理事長	工藤 啓
スタッフ	正規職員 : 23人 契約職員 (常勤) : 32人 契約職員 (非常勤) : 39人

調布・国領に「若者サポートステーション」 - 職業的自立を目指す

2013年07月18日

ツイート

9

おすすめ シェア

1

8+1

5



「ちょうふ若者サポートステーション」の面談の様子。相談員が就労に関する悩みを聞く。

厚生労働省の委託事業である「ちょうふ若者サポートステーション」(TEL 042-444-7975)が7月1日、調布市国領の産業振興センター内(調布市国領町2)に開設された。

「ちょうふ若者サポートステーション」受付の様子



同ステーションは、働くことに悩みを抱える15歳から39歳までの若者の職業的自立を目指し、キャリア・コンサルタントなどによる専門相談やコミュニケーション能力向上のためのセミナー、ビジネスマナー講座、職業体験の実施、保護者を対象にした相談やセミナーなどを実施し、職業的自立に結びつけるためのプログラムを提供する事業として、NPO法人「『育て上げ』ネット」(立川市)が運営する。

キャリア・コンサルタント、臨床心理士や社会福祉士、家族相談士などのさまざまな専門性を持つ相談員が複数で就労に関する悩みを聞き、その人に合ったセミナーや講座、仕事体験などのステップアップのためのプログラムを用意し、アルバイトや就職、職業訓練、進学などを目指す。そのほか、保護者向けの支援や、学校と連携し在学中の生徒や中退してしまった生徒などの進路相談などをする。また、地域にあるハローワークなどの公的支援機関をはじめ、さまざまな民間団体と連携してネットワークを構築。近隣の支援機関などの情報提供もしていく。

同ステーション所長の山本佳奈さんは「職業的な自立に向け、なかなか一歩が踏み出しにくい、自分に合う仕事が見つからないなど、さまざまな悩みについて解決に向けて一緒に考えていきたいと思う。スタッフ一同、お待ちしている」と話す。

営業時間は10時～18時(受付は17時まで)。利用は無料。登録には面談が必要。予約制。水曜・日曜・祝日休館。

石巻に若年無業者の就労支援ステーション開設(石巻経済新聞)

立川で若者向け就職応援プログラム「ホンキの就職」 - 「応募」苦手克服へ(立川経済新聞)

「育て上げ」ネット